



ミドルリーダーの挑戦
—前へ! 前へ!!

学校全体で取り組む緑化活動が 生徒の心を磨き、教師の絆を深める

熊本県熊本市立帯山中学校 **水田貴光** 42歳



Middle Leader

みずた・たかみつ◎教職歴20年。八代市立日奈久中学校、水俣市立袋中学校、熊本市立東野中学校などに勤務後、同校に赴任して8年目。担当教科は技術・家庭科。環境教育部長。熊本県教育研究会技術・家庭部会事業部長、熊本市教育センター研究員などを兼務。

これまで私が歩いてきた道のり

**信念を持って取り組めば
周りは認めてくれることを
荒れた学校から学んだ**

私が若い頃に赴任したのは、いわゆる荒れた学校でした。授業は成り立たず、注意しても問題行動が後を絶たない。保護者との対応もうまくいかない。教師としての自分の無力さを感じていました。

先輩の先生方を見て、生徒の心を耕すことが大切だと思い、私は緑化活動や清掃活動に力を入れました。顧問を務める陸上部の練習の合間に校内を掃除し、担当の技術家庭の技能を生かし、部員と一緒に花を植え

ました。最初は協力してくれる生徒、先生はわずかでしたが、半年、1年と続けるうちに手伝ってくれる生徒が増えていきました。始めは賛同者が少なくても、信念を持って続けられれば必ず生徒も先生方も協力してくれることを、この体験から学びました。教師のチームワークの下、学校の中で直しを続けた結果、3年後には問題行動を起こす生徒はほとんどいなくなっていました。

**一部の取り組みではなく
学校全体や地域への
広がりを持った緑化活動**

本校で、私は3年前から清掃や緑

化、掲示物などを担当する環境教育部長を務めています。「人が環境をつくり、環境が人を育てる」を目標に掲げ、古閑尚重校長の主導の下で、緑化活動を中心とした改革に取り組んできました。

本校でも以前からあいさつ運動や緑化活動は行われていました。しかし、どこか表面的な取り組みにとどまり、生徒の心に届いていないように感じていました。学校の外に出るとあいさつが出来ない。木や花もただ植えるだけ。たとえ物を壊しても弁償すればよい。生徒の心に響く取り組みにする必要があると感じていました。

最も意識したのは、一部の生徒や教師の取り組みにせず、全校でかわること、校内だけでなく地域にも活動を広げることです。「グリーンタイム」では、月1回、清掃時間を延長し、校内の清掃だけでなく、校庭も清掃し、緑化活動に生徒と教師が一緒に取り組んでいます。また、学校周辺の道路の花壇の整備を、生徒がボランティアで行っています。

学校が一丸となって取り組むための組織づくりも進めました。例えば、学級ごとにある花壇への意識を高め

*プロフィールは2013年3月時点のものです

ようと、毎年7月に「花壇コンクール」を開いています。本校は学級数が34にも及ぶ大規模校で、取り組みのねらいが浸透しづらいので、各学年の緑化委員の教師を通じて教師全員に正しい情報が伝わるように努め

今、私が踏み出そうとしている新たな一歩

生徒が笑顔で、やすらぎ、安心して過ごせる学校をつくっていききたい

私がずっと意識しているのは、生徒と一緒に取り組むこと、自ら行動して背中を見せることです。その姿勢は、環境教育部長になった今も変わりません。生徒と一緒に雑草を抜き、土を耕し、石を拾う。匂いのかきつい牛糞や石灰をまき、スコップで耕して種をまく。最初は面倒くさがっていた生徒も、種をまいてから2週間ほどで芽が出て、茎が太くなっていくのを見るうちに、使命感を持って取り組むようになります。苦労して守り育てた生命に責任感が芽生えるのです。今では、花を傷つける生徒は1人もいません。

ました。また、夏休みには11000人の生徒全員が参加する「夏休み水やりボランティア」を行っています。このように、緑化活動はただ花を植えるのではなく、学級の意識を高める取り組みとなっています。

部活動の指導でも、率先垂範になるように努めてきました。顧問を務める陸上部では、朝練で練習はせず、みんなで植物の世話や清掃活動をしています。責任感を育むことが部活動にもつながると考えるからです。次第に、サッカー部と野球部がグラウンド整備を、ハンドボール部が花壇の清掃を、剣道部が体育館の清掃を、柔道部が土の再生工場の清掃を、吹奏楽部は昇降口を中心に校内の清掃……と、他にもいろいろな部に活動が広がっていききました。

2011年度には「全国学校関係緑化コンクール」で文部科学大臣賞をいただきました。これも、学校主事の専門的な技能を生かしながら、校長を中心として教職員全員で組織的に運営し、また、大勢の生徒がボ

ランティアで協力してくれたからです。外部の機関に評価されたことで、生徒も大いに自信を持つことが出来たと思います。

また、緑化活動を通して、園芸の高校に進みたいという生徒が出てきました。緑化活動が生徒の進路にも影響を与えるものになってきたことは、大きな喜びです。

学校は生徒が安心して過ごせる場

所でなければなりません。学校が、生徒にとつて夢や希望の持てる場所であり続けること。私の夢は、生徒が生き生きとがんばれる学校、安心して通える学校にするための仕組みをつくることです。「安心、やすらぎ、笑顔」のある学校を目指して、目の前の生徒と向き合いながら、理想の実現に一歩ずつ近づいていきたいと思えます。

緑化活動で学校づくり

水田先生の取り組み

◎緑化活動は生徒の心を育むだけではありません。草花の手入れをしながら、気になる生徒に声を掛けて悩みを聞いたり、普段接点の少ない先生方と情報を共有したりすることも出来ます。生徒との心の交流、教師同士のつながりをつくる上でも大切な取り組みとなっています。



同校は学校前の道守花壇の管理を国土交通省から委託され、早朝ボランティアで生徒が手入れをしている。通勤・通学中の人から声を掛けられることを励みにする生徒も多い。